

**9** 沖縄本島における主として人家周辺での蚊成虫の捕獲成績 (2003-2005 年).

○當間孝子<sup>1)</sup>, 比嘉由紀子<sup>1)</sup>, 宮城一郎<sup>1)</sup>, 澤辺京子<sup>2)</sup> (1)琉球大学・医学部, (2)国立感染症研究所). Mosquitoes collected mainly at residential areas in Okinawa Island (2003-2005). Toma, T., Higa, Y., Miyagi, I. and Sawabe, K.

2003年7月から2005年3月にかけて沖縄県那覇市及び近郊の人家5軒の庭, 飛行場に隣接する嘉手納町役場の敷地, 沖縄市の子供未来ゾーン(動物園)内で, BLB ライトトラップ (BLB) 単独, BLB とドライアイス (DI) 併用, CDC タイプのライトトラップ (CDC) と DI 併用で成虫を捕獲した. 成虫捕獲は週に1~2回, BLB 単独は夕方7時から翌日朝7時まで, DI を用いた採集では夕方7時から翌日の夕方7時まで行った. DI は発泡スチロールの容器に入れ, BLB や CDC 横にぶら下げた.

住宅地では5種の蚊が採れ, ほとんどが *Aedes albopictus* と *Culex quinquefasciatus* で年間を通して採集された蚊の個体数は少なかった. 琉球大学農場では CDC+DI を 38 回行い 6 種 551 個体の蚊が捕獲され, ほとんどが *Ae. albopictus* であった. 10 分間に人に吸血飛来した蚊は, 延べ 66 回で 2,007 個体が採集され, ほとんどが *Ae. albopictus* であった. 嘉手納町役場では 32 回の採集で 5 種 13 個体が捕獲された. 動物園では 33 回採集を行い, 11 種 1,485 個体が採集され, 10 月に多くの個体が採集された. *Culex vishnui* subgroup, *Armigeres subalbatus*, *Mansonia uniformis* が多かった. 住宅地, 大学農場, 嘉手納町役場, 動物園で採集された蚊 2,594 個体について ウエストナイルウイルスの検出を試みたが陰性であった.

**11** 九州西北部沿岸の樹洞のヤブカ; 特にワタセヤブカの分布について

○水田英生 (大阪検疫所). Study of Mosquitoes of Aedines in tree holes on Coast of Northwest Kyushu, Japan: Mainly of *Ochlerotatus watasei*. Mizuta, H.

ワタセヤブカは 1916 年に長崎県大村において成虫が採集されて以来, 琉球列島, 屋久島そして九州北西部の長崎県平戸島, 壱岐島, 鷹島, 福島で未成熟虫が採集されたが, 大村の採集例を除き島以外からの採集報告はない. 九州西北部沿岸において樹洞のヤブカの幼虫調査を実施し島以外でワタセヤブカを採集したので報告する. 調査は 2004 と 2005 年に行い, 2004 年は 5 月から 10 月にかけて福島県を調査し, 2005 年には 2004 年にワタセヤブカが最も多く発生した 5 月初旬に佐賀県福田, 佐賀県肥前町, 福岡県志摩町の沿岸と福島県の樹洞を調査した. 2004 年の調査では, ワタセヤブカが 5 月に多くの樹洞で認められたが, 6 月以降減少し 7 月には見られなくなった. シロカタヤブカが 8 月, 9 月の渇水期を除き 5 月初旬から 10 月初めまで認められ 5 月末には生息樹洞数が最大となった. リバーズシマカが 5 月初旬から認められ渇水期を除き 7 月と 10 月には生息樹洞数が最大となった. ヒトスジシマカが 5 月末頃から認められ渇水期を除き 7 月と 10 月には中程度に認められた. ヤマトヤブカが 7 月初めにわずかに認められ, オオクロヤブカが 10 月末期に中程度に認められた. 2005 年 5 月初旬の調査ではワタセヤブカが志摩町を除く調査地点で少数から中程度に認められ, シロカタヤブカが全ての調査地点で中程度から多数に認められた. またリバーズシマカが志摩町を除く調査地点で少数に認められ, ヒトスジシマカが志摩町のみで少数認められた.

**10** ミクロネシア連邦のヤップ島とウリシー環礁における蚊の採集成績.

○野田伸一<sup>1)</sup>, Gilmadam, J.<sup>2)</sup>, 荻野和正<sup>3)</sup>, 當間孝子<sup>4)</sup>, 宮城一郎<sup>5)</sup> (1)鹿大・多島圏研究センター, (2)Department of Health Services, Yap State Government, FSM, (3)産業医大・寄生虫学・熱帯医学/サニックス, (4)琉大・医・保健, (5)東南アジア・南太平洋蚊族研究室). Mosquitoes collected at Yap Islands and Ulithi Atoll, Yap State, Federated States of Micronesia. Noda, S., Gilmadam, J., Ogino, K., Toma, T., Miyagi, I.

鹿児島大学多島圏研究センターのプロジェクト「多島域における小島嶼の自律性」の一環として, ミクロネシア連邦のヤップ島とウリシー環礁で蚊の分布調査を実施した. ヤップ島はなだらかな丘状で, 面積 100Km<sup>2</sup>, 人口 7,800 人である. ウリシー環礁は平坦な 49 の島からなり面積は 4.6Km<sup>2</sup> で, 4 島に 1,000 人が居住している. 1999 年 10 月と 11 月にヤップ島, そして 2001 年 10 月にウリシー環礁で蚊幼虫の採集を行った. 蚊の生息場所はヤシ殻・樹洞・小水溜り・水源地ダム, それにコンクリート水溜り・カヌー・空缶・小容器 (プラスチック・金属・陶器)・ドラム缶・古タイヤなどの人工物であった. ヤップ島では 60 ヶ所から未同定 2 種を含む 10 種類 723 個体を採集した. *Aedes hensilli* は全採集個体の 70.0% を占め, ヤップ島での優占種と考えられ, 次いで *Ae. maehleri* (13.4%), *Ae. lamelliferus* (8.4%), *Culex quinquefasciatus* (4.8%) であった. 他の 6 種, *Cx. sitiens*, *Lutzia fuscana*, *Aedeomyia catasticta*, *Cx. annulirostris*, *Culex* sp. and *Aedes* sp. は少数であった. ウリシー環礁では 56 ヶ所から 658 個体が採集されたが, *Ae. hensilli* (71.9%), *Cx. quinquefasciatus* (28.1%) の 2 種のみであった. 本調査では *Ae. aegypti* と *Ae. albopictus* は採集されなかったことから, デング熱の発生では *Ae. hensilli* が関与すると考えられる. なお, *Cx. annulirostris* と *Ae. lamelliferus* の 2 種はヤップ島での新分布記録である.

**12** Body size variation: a long standing problem of life history evolution of mosquitoes and mosquito researchers.

○Dieng, H. and Eshita, Y. (Dept. of Infect. Dis. Cont., Facul. of Med., Oita Univ.).

Most apparent aspect of an organism's life history, body size is an important selective agent underlying the overall biology of mosquitoes and as such, our knowledge on them. Although it has a genetic basis, most expressed sizes results from interplay between the genome and larval history, but also from scaling. Size variations together with long-growing controversies owing to variable approaches, are increasingly being noted in the literature and this has even led some to sound a note of warning about this parameter [Grimstad & Haramis (1984), Hans Briegel (Briegel 2003), distinguished achievement award presenter at the 2002 Society of Vector Ecology Meeting]. As a primary step towards a monolithic view on this crucial parameter, here, we provide background for, and an entry into the voluminous literature on body size. We dealt with: (1) mosquito growth/development, (2) size and mosquito physiology, (3) scaling and some strategies helping to avoid experimental bias, (4) methods to assess size and related controversies and (5) how to make size.